

平成27年7月5日執行

白河市長選挙選挙公報

白河市長選挙管理委員会

引き続き放射能問題に取り組みます！

- 着実な除染の実施
- 農作物等の風評払拭
- 徳島大学との連携等による放射能の正しい知識の啓発
- 福島第1原発早期廃炉の推進

子育てしやすい、安心できる地域社会の実現を目指します！

- 切れ目のない子育て支援の充実
- 健康づくりと保健・医療体制の推進
- 高齢者福祉の充実
- 消防、防災体制の強化

安定した生活をつくる産業の振興を図ります！

- 地元企業の振興
- 強い農業の育成支援
- 新しい企業の誘致
- 観光の振興
- 起業家の育成支援
- 再生可能エネルギーの推進

白河市のさらなる発展のために ～「地方創生」元年!!～

未来を担う“人財”を育てます！

- 計画的な学校施設の整備
- 総合的な人間力を養う教育の推進
- 文化活動の推進、地域の伝統文化の保存と継承
- 高等教育機関の誘致

快適さと品格を兼ね備えた街並みをつくりたい！

- 中心市街地の活性化と歴史、文化を活かしたまちづくり
- 良好な景観の形成
- 生活道路等の整備
- 国道294号白河バイパスの整備促進
- 地域公共交通の利便性の向上

効率的で効果的な行財政運営を進めます！

- 町内会やNPO等各種団体との連携による市政の推進
- 積極的な情報の発信
- 健全な財政運営
- さまざまな補助金等を活用した事業の展開

合併後間もなく市長に就任、以来二期八年の間、財政の健全化に努め、地域バランスを考慮しながら新市発展のため様々な事業に取り組んできました。未曾有の災害により少し足踏みしましたが、現在は、復旧・復興が進み、将来にわたって発展するための礎となる企業誘致や、国道294号白河バイパス、文化交流館などの整備が着々と進んでいます。

本市は首都圏に近く、新幹線や高速道路が整備されるなど立地条件に恵まれ、小峰城など歴史的資源も数多くありますが、こうした足元の宝を活かすことで、さらに飛躍する可能性を秘めています。私は高い志と強い責任感で、誇りと愛着が感じられるより魅力的な白河市をみなさんとともに創ってまいります。

誇りと愛着が感じられ、子供たちの笑顔が輝く白河市を創っていきます



鈴木かずお

プロフィール
▽白河市生まれ（1949年）
▽白河高等学校・早稲田大学法学部卒業
▽福島県構造改革室長、商工労働部政策監、相双地方振興局長、企業局長
▽白河市長（2007年）



無所属
かなやま
金山じゅん

略歴
・一九四〇年生まれ、東京都出身
・青山学院大学馬術部OB
・「馬いなく町」を広める会主宰
・パーチャルスクール
・「白河乗馬学校」経営
・現在、福島県白河市在住

可能性

僕等は輝ける時を待っていて
思いもつかなかったチャンスをつかもうとしてる
新しく始めるよ僕は、心には明かりをともし
・・・ダメじゃないよ僕たち、終わらせんな可能性

私案

白河新都プロジェクトについて

鈴木市政の第三期目となる今回の市長選挙、5月30日の後援会事務所開きでの挨拶で氏は次のように述べたと伝えられている。「自分たちの地域は自分たちでつくるのが大事。白河のあるべき姿について私の考えを市民に訴える」

これは当然な事。つづけて広域的な定住自立圏構想による将来像を示し「地方創生に向け、新しい白河を築きたい」と支持を訴えた。「広域的な定住自立圏構想」とは一体なんのこっちゃかまったくわからない。「地方創生に向け新しい白河を築きたい」に至っては具体的にどのようなものが述べられておらず、聞くものには氏が目指す新しい白河がまるで見えてこない。

今回の市長選挙の課題はほぼ次の三点に絞られるだろう。
一、人口減少をいかに防ぐか
二、風評払拭待ったなし
三、地域活性の拠点整備

私は一にも二にも三にも教育が原点だと、これは8年前の市長選から訴え続けていて、今回もぶれずに改めて教育の大事さを訴えたい。国を創るのは箱物ではない。あくまで人、人材あつての国創りだ。その点、氏は既に大失態を犯している。それが、三の地域活性の拠点整備に直接関係する現在建築中の白河文化交流館だ。九十億の総工費をかける大プロジェクトだ。前市長の成井氏が手がけた総工費16億の5駅前

作詞・作曲 山口隆

きれいな選挙で明るい市政

投票日 7月5日(日)

午前7時から午後6時まで

平成27年7月5日執行

白河市長選挙選挙公報

白河市選挙管理委員会

1 市長給与を3割削減します

市長給与の3割削減を行い、「改革」を進め行政の効率により財源を確保し、「子ども人口減少は白河の危機」に全力で取り組みます。

企業というものはどうすればムダな経費が省けるかと、一生懸命汗を流します。今こそ財源が厳しい行政にもこの企業感覚が必要です。

2 産みやすい育てやすい環境の整備

適切な政策によって「少子化」に歯止めがかけられます。

長野県下條村は少子化を食い止めた「奇跡の村」と呼ばれております。

- 保育園の保育料を引き下げます。
- 待機児童を解消します。
- 学校給食費の軽減を図ります。
- 奨学金制度の充実を図ります。

3 議員定数の削減を目指します

- 現在26の定数ですが、議会と相談して数名の定数削減を目指します。

4 表郷・大信・東庁舎に決済権限を与えます

- 3庁舎の「所長の決済権限」を拡大し、3地域の特性を活かせる裁量ある予算配分を行います。

5 中央公民館を整備します

48年前に建設された中央公民館は屋内外ともに老朽化し雨漏りや、また駐車場スペースも狭く整備は必要です。

6 健康づくり環境の整備

- 健康に生活できる健康づくりの「運動環境」を整備します。

子ども人口減少は「白河の危機」

かつて、白河中央中学校は福島県一のマンモス校といわれ45人から50人学級が12クラスから13クラスあり約1,800人の生徒がいました。平成26年度の生徒数は483人で、約1,300人の生徒が減ってしまいました。困ったことは、今も減りつづけていることです。

<小中学校消滅の危機>

合併後の平成18年5月から平成26年5月の小学生人口は下記のとおり741人も減少しております。

平成18年5月	平成26年5月	減少数
1日現在	1日現在	
4,315人	3,574人	741人

このままですと数年後には各地域の小中学校のほとんどが消滅してしまふこととなります。現在でも、小学生が5・6人の町内は珍しくありません。このまま「子ども人口減少」がつけば、町内に一人も小学生がいなくなってしまうという寂しい事態も、決して大げさな話ではありません。まさに危機的な状況にあります。

もう楽観は許されません。何としても「子ども人口減少」を食い止める施策を立てる必要があります。



プロフィール

- * 県立白河高等学校卒業
- * 法政大学卒業
- * 日本赤十字社救急法指導員
- * 白河中央中学校元PTA会長
- * 第87回ボストンマラソン出場
- * 徒歩による東北一周
- * 福島国体陸上競技審判員

しばはら隆夫 たかお

投票日 7月5日(日)

投票時間 午前7時から午後6時まで

あなたの大切な一票
棄権しないで
投票しましょう。

未来のための



「築きます！ あなたの一票 白河市」

白河市長選挙

白河市選挙管理委員会・白河市明るい選挙推進協議会